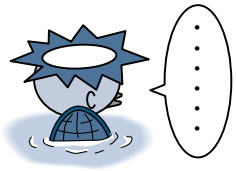
なりました。うれしい限りです。しかし、逆に豊川などの大型河川での採集活動では、周りに私だけしかいないという状況もありますし、夢中になって暗くなるまで採集していると、薄暗い川原や、どす黒くとうとうと流れる川面に気味が悪くなってきます。遠くで突然、「ボチャンッ！」とコイが跳ねるとびっくりしてしまいますし、風もないのに草原が揺れると恐怖のあまり、カッパではないか、と真剣に思うくらいです。



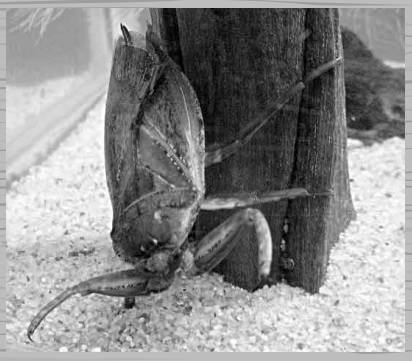
幻の水生昆虫

この夏の最大の出来事は、市内でタガメを捕まえたことです。タガメは水の中にすむ昆虫で、体長は5～7㎝くらいです。カマのような形をした大きな前足でオタマジャクシやカエル、魚などを捕まえて食べます。平地や丘陵の池沼や水田といった、「里山」といわれる地域を代表する生き物で、かつてはどこの水田でも普通に見られる昆虫でした。しかし、農薬の使用や、開発などの自然環境の変化で、その数は減少し、現在では全国的に希少な昆虫になってしまいました。

この時は、実はタガメを捕まえに行ったわけではなく、調査していたわけでもなく、何か飲もうと自動販売機にジュースを買いに行った時のことでした。なんと、田んぼや水路ではなく、自動販売機にタガメがとまっていたのです。タガメはカメムシのなかま（田んぼのカメムシで「タガメ」）で、ふだんの生活は水中でしていますが、羽を持っており、空を飛ぶこともできます。この時は夜でしたので、自動販売機の明かりに誘われて飛んできてしまったのでしょう。

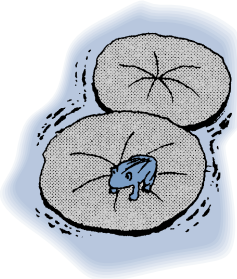
タガメは水生昆虫の王者といわれていますが、環境の悪化にはとても敏感な弱い昆虫なのです。私は、今の蒲郡にはタガメはいないと思っていましたので、この光景はとても衝撃的でした。すぐに捕まえて水族館に搬入し、飼育を開始しました。

タガメは、幼虫のころから、自分よりも大きな魚やカエルなどを捕まえて、たくさん食べます。もし、蒲郡で大食漢のタガメが住んでいけるとしたら、蒲郡の水辺には、エサとなるさまざまな生き物がたくさんおり、まだ自然が多く残された環境であるといえるわけです。自然環境のバロメーターともいえる生き物なんですね。


自動販売機の前で出会ったタガメ。

蒲郡の水辺の環境は、まだまだ捨てたものではありません。皆さんも捕虫網と水生生物図鑑を持って、川や田んぼにでかけてみてはいかがでしょうか。水辺の生き物たちとふれあい、関心を持つことによって、川や山、そして私たちのまちの環境のことなど、もっと大きなものにも目が向くことでしょう。そこには、新しい発見がたくさんあります。身近な水辺を大切にしたいですね。

市内の田んぼにも愉快な生き物がたくさん住んでいます。

次回の「海辺の館のとっておき」は、蒲郡市博物館からお送りいたします。お楽しみに。

竹島水族館
学芸員 小林龍二